

正誤表

「新編 家畜生理学」第1版第1刷

2016年3月

頁	行	誤	正
-2-	執筆者一覧 5	山崎 淳	山崎 淳
3	3,6,8	DG	DAG
3	10	共役受容体と	共役受容体は
6	図 1・7(A), (B)	DDB	DBD
8	表 2・1 (注釈)	<p>歯は左右対称に生えるため歯式は片側で示される。</p> <p>上段は上顎の、下段は下顎の、それぞれ左から門歯、犬歯、前臼歯(人では小白歯)、後臼歯(同、臼歯)の数を示す。</p>	<p>歯は左右対称に生えるから歯式は片側で示される。</p> <p>上段は上顎の、下段は下顎の、それぞれ左から切歯(ヒトでは門歯)、犬歯、前臼歯(同、小白歯)、後臼歯(同、臼歯)の数を示す。</p>
9	図 2・1 (牛の注釈に追加)		13.食道, 14.第一胃, 15.第二胃, 16.第三胃, 17.第四胃
24	10	めん羊では3週とされている。	(削除)
40	下から 7	消化管運動を促進する。	消化管運動を促進する。
45	6	上部でビタミン D	上部で活性型ビタミン D
46	図 2・28	トリグリセリド	トリアシルグリセロール
59	11	洞様	同様
62	下から 10	メトラニン	メラトニン
64	下から 10	トリヨードサイロニンには循環血中に出る	トリヨードサイロニンは循環血中に出る
65	5	細胞核による	細胞核にある
68	下から 1	ゲルカゴン	グルカゴン
72	1~2	血漿値を上昇	血糖値を上昇
76	13	アドレセナリン	アドレナリン
79	8	フィードバック	フィードバック

頁	行	誤	正
81	11	「この目的で～測定することができる」	動物の熱生産量は熱量測定装置を用いて測定する. すなわち, 遮断した小室に動物を入れると, 室内の温度が動物体から発生する熱のために上昇するが, 小室のラジエーターに水を通して室内を一定の温度に維持する. その時の水の流入温度, 流失温度および水の流量を測定し, 流水とともに運び去られた熱量を計算する. また, 呼気や皮膚から蒸発する水分量は部屋の水蒸気を捕捉して測定する. この水分量より蒸発潜熱を計算する. これらの値に若干の補正を加えて動物体の総熱生産量を計算する.
87	14	4Pi	2Pi
90	表 4・2	リレゴ酸	リンゴ酸
90	表 4・2	30 分子または 32 分子	32 分子または 30 分子
96	6	アンモニア	アミノ基
98	下から 2	アミノ酸の分解はおもに肝臓で行われる.	アンモニアはおもに肝臓で処理される.
106	1～	アセチル CoA もアセチル CoA カルボキシラーゼのはたらきで CO ₂ と結合してマロニル CoA となり, さらに脂肪酸運搬タンパク質(acyl carrier protein, ACP)と結合した脂肪酸合成酵素にはたらきで炭素が 2 個結合する.	アセチル CoA はアセチル CoA カルボキシラーゼ(acetyl-CoA carboxylase)のはたらきで CO ₂ と結合してマロニル CoA になる. さらに脂肪酸運搬タンパク質(acyl carrier protein, ACP)と結合した脂肪酸合成酵素(fatty acid synthase)によるいくつかの反応を経てマロニル ACP の炭素が 2 個結合して脂肪酸分子が伸長する.
106	7	エイコサン酸	アラキジン酸

頁	行	誤	正
108	12	脂肪合成	脂肪酸合成
109	9	生体のミネラルは(無機質, minerals) 体重の	生体のミネラル(無機質, minerals) は体重の
113	3	タンパク質、脂肪の蓄積	タンパク質の蓄積量、脂肪の蓄積 量
113	5	タンパク質の成長、タンパク 質：脂肪蓄積比	タンパク質の蓄積量の増加、タン パク質：脂肪蓄積量比
113	8	脂肪とタンパク質の蓄積速度	タンパク質と脂肪の蓄積量の増 加
113	8~9	タンパク質：脂肪蓄積比	タンパク質：脂肪蓄積量比
120	下から 10	(長さ約 160)	(長さ約 160 nm)
123	下から 4	(fast-Witch-	(fast-twitch-
126	5	特使な細胞が分化	特殊な細胞が分化
129	図 6・1	脂肪敵	脂肪滴
130	10	の要領を占める	の容量を占める
130	下から 7	約 90%は脂肪細胞でなる。	約 90%は脂肪細胞である。
131	5	Ⅲ 脂肪細胞分化・成熟課程と 関連因子	Ⅲ 脂肪細胞分化・成熟過程と関 連因子
131	7~8	分化課程については	分化過程については
133	図 6・4	などなど	など
134	下から 13	レプリン受容体	レプチン受容体
134	下から 11	胎児	胎仔
134	下から 3	顕著に減少ことから	顕著に減少することからも
136	1	math	mass
136	9, 15	抹消組織	末梢組織
136	下から 5	低いことがら、解糖系からアセ チルー	低いことから、解糖系からのアセ チルー
137	1	飼料中多く含まれ	飼料中に多く含まれ
137	下から 6	引き起こる	引き起こされる

頁	行	誤	正
137	下から 4	グルコースの取り込みが減少させ、	グルコースの取り込みを減少させ、
138	5	糖脂質代謝系持ってる	糖脂質代謝系を持ってる
138	下から 4	習慣病に	習慣病を
138	下から 1	脂肪組織の 80%が腸管、	脂肪組織の 80%を腸管、
154	1~2	中性好性球 酸好性球 塩基好性球	好中球 好酸球 好塩基球
154	7	採決部位	採血部位
154	下から 5	食作用：好酸球と単球は	食作用：好中球と単球は
158	表 7・11 注釈	Veterin◆ar-Physiologie	Veterinär-Physiologie
158	下から 11	感染防御抗体の主役	(削除)
213	図 10・1 注釈	6.光彩	6.虹彩
244	9	牛	馬
249	図 11・5 注釈	ストロジェン	エストロジェン
255	14	乱膜	卵膜